



新年のお喜びを申し上げます

新しい一年の始まりに、今年が、災害や事故のない一年となり、社会の安寧が図られ、皆様、ご家族様の幸福を心からお祈り申し上げます。

さて、『三尺三寸箸で食事する話』というお話がございます。仏教の説話として有名ですが、「今だけ、金だけ、自分だけ」という政治を戒めるようなお話ですね。

このお話は、地獄でも極楽でも豪華な食事が用意され、どちらも1メートル近い箸を使って食べています。地獄では自分の口に入れようとするばかりで、なかなか食べれない。そのためイライラして争いも絶えず、互いに弱ってしまうのですが、一方の極楽では同じ長さの箸を使って、互いの口元に料理を届け合い、豊かに生活しているというお話です。

我さえよければ、という政治。本当のことがバレなければ、という政治。開き直りごまかす政治。これを見本として行動する人々が増える社会の世情に、この国の未来を憂います。私はこの国の政治、地域の政治をまっとうなものに変えるために、引き続き頑張ろうと決意しています。

2026年においても、活力ある宮崎の産業の発展と、そこで働く多くの労働者を大切に、公平公正な社会、助け合いの社会づくりに邁進していきたいと思います。皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。

『子どもに優しい社会を』

岩切たつや

県議会 便り

今年も全力で取り組みます

支え合いの社会づくりを

2026年1月 発行
県議 岩切たつや

住所 880-0942
宮崎市生目台東1丁目6-8
電話 0985-89-5158
fax 0985-86-8778

11月議会の質問内容

- 1 人口減少問題に対する重点施策の推進方針について
- 2 県警察本部長着任にあたっての所信
- 3 教育費負担の実態について
- 4 高校教育について
 - ・公立私立の定員議論をどうするめるか
 - ・広域通信制高校への対応
- 5 職員確保について
- 6 新田原基地F35B訓練実施について
- 7 子どもの福祉について
 - ・子どもの自殺防止
 - ・学習障害の対応
 - ・児童虐待の対応
- 8 モバイルバッテリー事故防止
- 9 スポーツランド宮崎づくりについて
- 10 道路管理の問題

岩切たつやの日常活動

県議会・商工建設常任委員会の県外視察で、石川県七尾市和倉の被災地へ。強い地震と海岸隆起被害に対応する工事が懸命に行われています。自然の力に畏怖する現場視察になりました(10/22)→
また、宮崎市高千穂通歩道改修工事の参考にするため、東京虎ノ門の街路活用状況を学びました(10/21)↓



10月14日、防衛省に、新田原基地でのF-35Bによる垂直着陸訓練について中止するように申し入れ→



←渡辺創衆議院議員に案内いただき、国会の見学です。様々なことが決まる場所、緊張感があります。



秋は各種福祉大会が目白押しになります。出席して様々なことを学びます。



二〇二六年も、地域の声を丁寧にお聞きし、出来事をつかり調査して、果敢に活動してまいります。

皆様の、県政に対するご意見、ご要望をお聞かせください。



岩切連誠FacebookのQRコードです



(11/30) 様々な思い、意見、疑問をお話しいただきました。【あおぞら街角相談会】↑



多くの労働組合や、団体の総会、定期大会にに伺いました。→



←山内佳菜子参議院議員にお願いし、地元の課題である公営住宅の入居資格(所得超過の課題)と、福祉目的利用について、国土交通省住宅局に要請をすることができました。



寒くても暑くても、皆さんにごあいさつ。定期的に辻立ちをさせていただきました。→



国地方議員交流研修会

←↑多くの研修会に参加し、先進事例を学びます。札幌での研修会は雪でした。



岩切たつやプロフィール

1961年生、1979年県庁入庁し、児童相談所や福祉事務所等に勤務。その間、労組委員長、PTA会長など労働運動、地域活動に取り組む。
2015年県選に初当選し、現在3期目。議会内会派の「県民連合立憲」の会長、商工建設常任委員会委員、立憲民主党宮崎県連幹事長、社会福祉士、宮崎県里親会会長



Q 手話施策推進法が施行されました。県における手話振興策について伺いたい。

A (知事)「手話を広める知事の会」に参加し取り組んできました。法律に先んじて、県で条例を作り、手話の知識・技能を有する人材の確保など進めてきた。

全国障害者スポーツ大会にむけ、手話・要約筆記ボランティア600名の募集を開始し、更なる人材の確保を図ることとしている。

デフリンピックが日本で開催されることから、さらに手話に関する理解と関心を高めていく。



九月議会



「すき」

偏見や差別のない社会を



Q 外国人差別をなくし、多文化共生社会を実現するための、県における取組はいかがですか？

A (部長)お互いの文化的な違いを認め合い、差別されなく共に生きていく「多文化共生社会づくり」は重要。

外国人サポートセンターを設置し、外国人住民の生活支援や悩みにこたえる対応を多言語で行っている。地域への参加・交流の促進など市町村と連携して、相互理解に努め、外国人住民が地域社会の一員として安心して暮らせるよう、県民とともに誰もが暮らしやすい宮崎づくりを進めていく。

Q 住宅着工戸数が昨年同月の約半分ですが、今後の見通しは？ また、県産木材の需要動向は大丈夫ですか。

A (部長)法律改正により、断熱材や住宅設備など省エネ基準適合が義務となることから、前年度末に、法改正前の駆け込みの着工があったため、今年度は、前年同月の半分程度になっているものの、徐々に回復してきているものと考えます。

新規住宅着工戸数の減少は、県産材需要の減少を招く。特に製材工場では燃油価格高騰、製品需要の減という大変厳しい状況。非住宅分野における木材利用促進などに取り組む。



住宅建設件数は、広範囲の職業人の生活に直結します。

9月議会の質問項目 (会派を代表して質問に立ちました)

- 1 多文化共生社会について
- 2 F-35B配備の課題
- 3 県管理資産の運用状況
- 4 県職員の採用等について
- 5 手話推進法施行に伴う手話振興策等
- 6 学校教育体制にかかる課題について
- 7 定年退職者の就業支援
- 8 地熱発電の可能性について
- 9 減少した住宅着工件数の影響等
- 10 県南地域の公的医療機関の存続にかかる課題

Q 知事は人口減少問題に対する取組として、「緩和」と「適応」と言いますが、その意義と対応について伺います。女性や若者が活躍できる社会づくりが重要と思いますが、知事の思いはいかがですか。

A (知事)人口減少の速度を緩和し、人口減少下にあっても、豊かに暮らせる社会を目指していく。生活に欠かせない医療福祉、交通物流の維持や、企業の生産性向上、人材の確保など、縮小する人口規模への適応策を強化していく。

若者・女性に選ばれる宮崎となるために、自分らしいキャリアを描き実現できる環境を拡大していく。起業支援、非正規雇用から正規雇用への転換支援に取り組む。地域や家庭に残る性別役割分担意識の解消が不可欠で、男女がともに活躍する「とも活」推進で、多くの若者・女性にとって魅力ある地域の実現を目指す。



Q 広域通信制高校に在籍する生徒や保護者の抱える課題に、どう対応されていますか？

A (部長)本校が所在する都道府県の所管である。サテライト教室などに在籍する生徒数が多い学校を中心に訪問を行うなど、設置者との関係づくりとともに、県に寄せられた相談には対応していきたい。

Q 人口減少下での農業、水産業の担い手確保対策について伺います。

A (部長)食料生産基地としての役割を果たすため担い手確保が重要。体験研修や経営資源継承、外国人材確保の支援を強化する。

農地集約、区画拡大、高性能漁船やスマート技術導入により、就農・就業しやすく稼げる環境づくりを進める。

◇県民の負託にこたえる◇

私たちが暮らす社会は、人口が減少していること、その人口構成が高齢者が多く、子どもが少ない「少子高齢化」に進むなか、産業や地域の様々な担い手を、どのように確保していくかという課題を、みんなで考えている状況にあります。

様々な声を聞かせていただくために皆さんのもとに出かけ、また、新しい情報を得るため、どんなに研修会や講演会に出かけていきます。

これからも、岩切達哉は県議として、実直に県民の負託にこたえる活動を続けて参ります。

皆さんの声をお聞かせください。



Q 児童虐待の現状と、その防止に向けた取組の状況について伺います。

A (知事)児童虐待対応件数は令和6年度は1987件と、令和4年度の2019件をピークに高止まりの傾向にある。ダイヤル189(イチハヤク)や、無料電話相談、SNS相談窓口設置など取り組んでいる。

児童虐待は心身に深い傷を残し、成長した後も、生きづらさにつながることから、決して許されるものではなく、高止まりしている現状に強い危機感を抱いている。職員増員、弁護士等の配置で専門性の強化などと同時に、「親子関係再構築支援員」を配置し、再発防止に努めている。

市町村や、関係機関とともに、虐待のない社会の実現を目指して全力で取り組んでいく。